

2022年度ディプロマポリシーに関連した能力に関するルーブリック調査

(自己評価アンケート)

対象：現代ビジネス学科2年次（卒業許可者）

2021年度入学

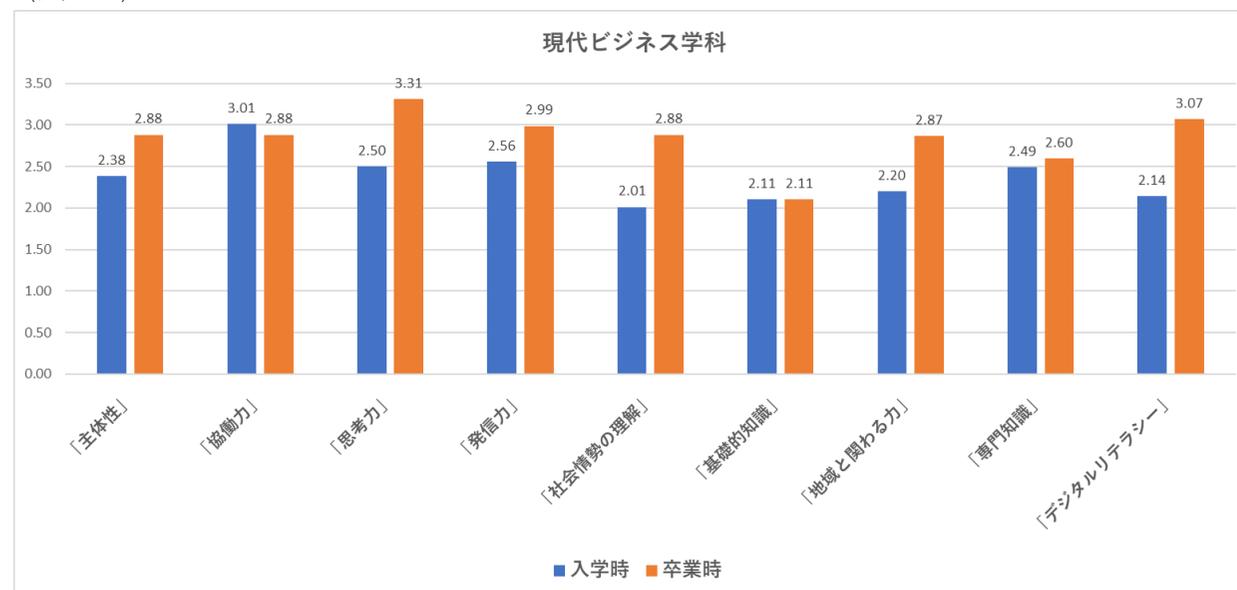
アンケート実施期間：入学時 2021年4月・卒業時 2023年1月

アンケート回答率：100%（83名/83名）

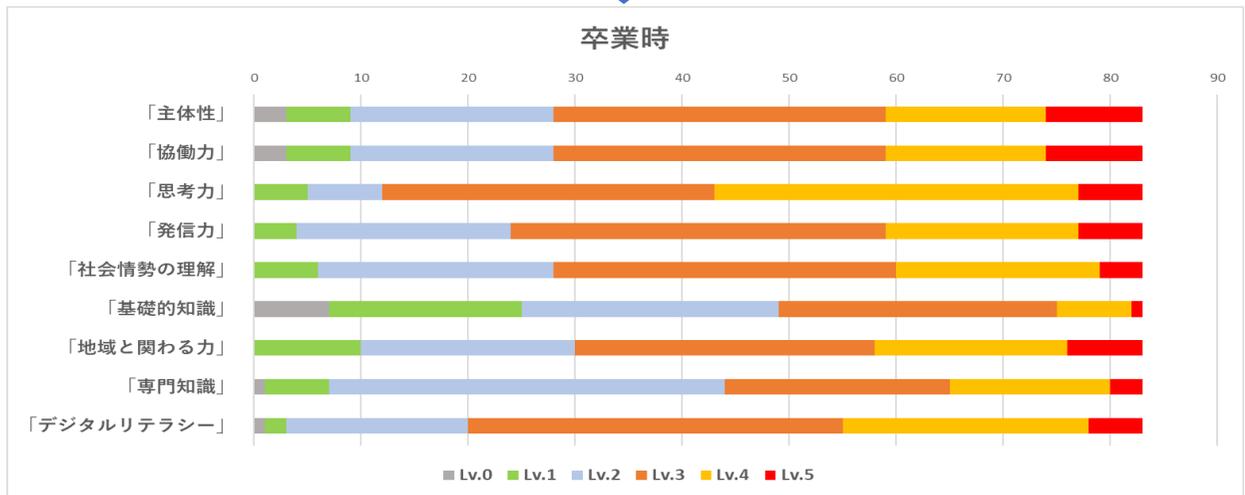
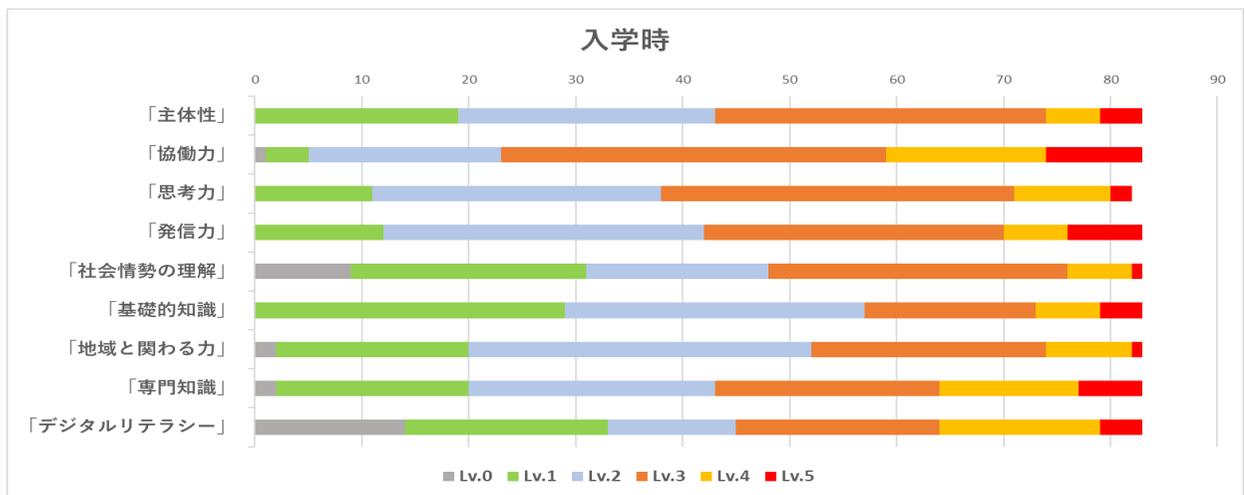
現代ビジネス学科全体

全体	主体性	協働力	思考力	発信力	社会情勢の理解	基礎的知識	地域と関わる力	専門知識	デジタルリテラシー	総平均値
入学時	2.38	3.01	2.50	2.56	2.01	2.11	2.20	2.49	2.14	2.38
卒業時	2.88	2.88	3.31	2.99	2.88	2.11	2.87	2.60	3.07	2.84
差異	0.50	▲ 0.13	0.81	0.43	0.87	0.00	0.67	0.11	0.93	0.46

〈グラフ1〉

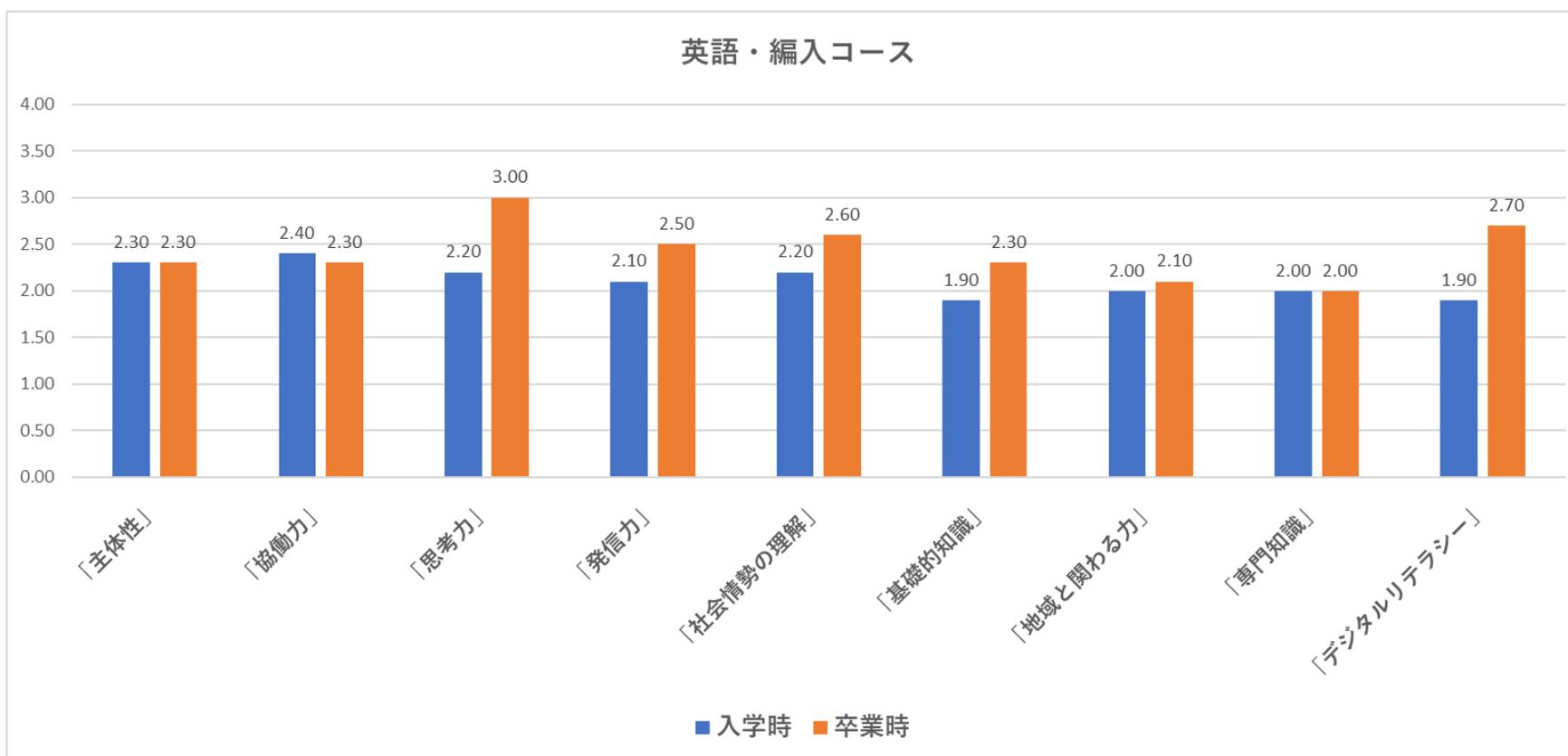


〈グラフ 2〉 割合比較 ビジネス学科全体（暖色系はレベル3～5、寒色系はレベル0～2）



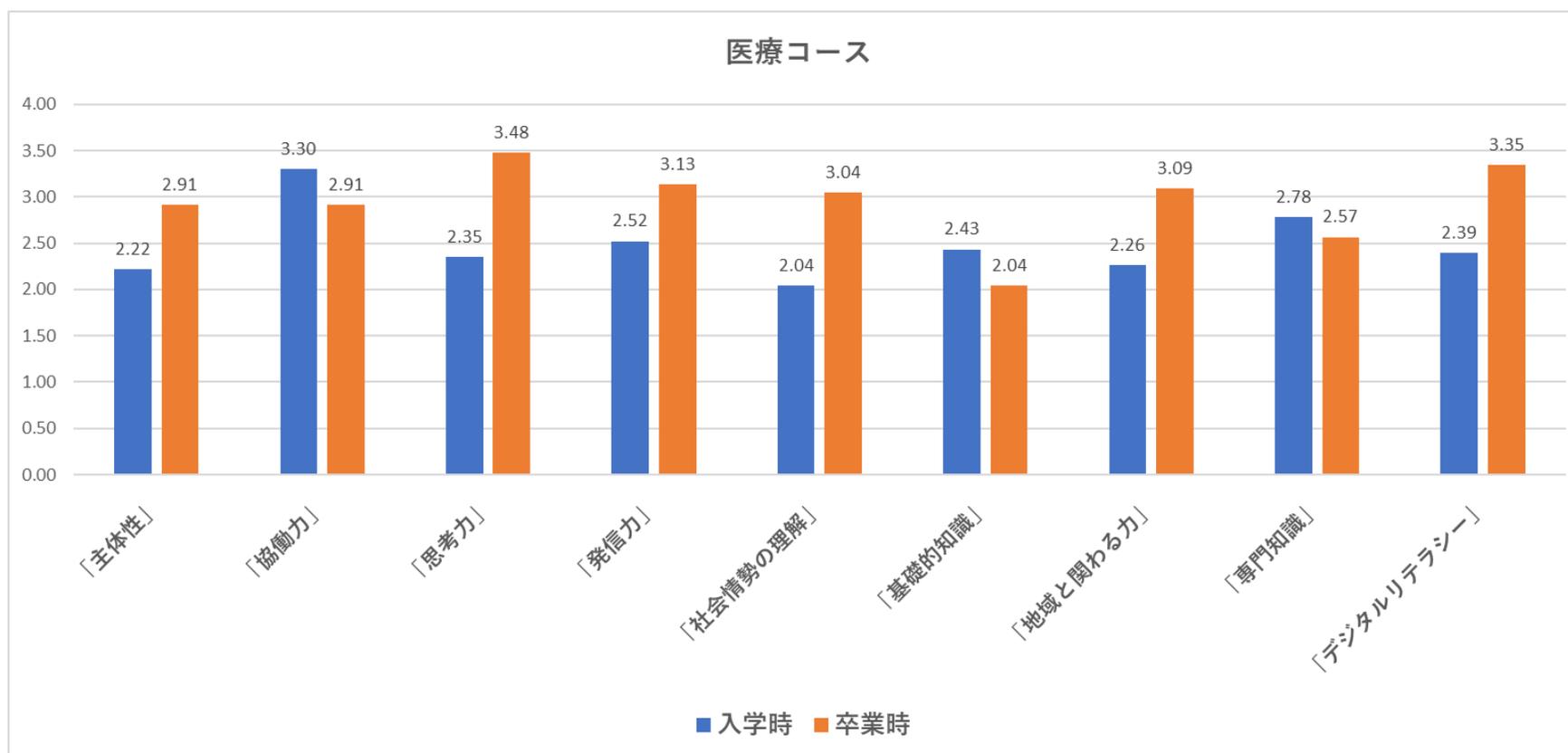
〈グラフ 3〉 英語・編入コース

全体	主体性	協働力	思考力	発信力	社会情勢の理解	基礎的知識	地域と関わる力	専門知識	デジタルリテラシー	総平均値
入学時	2.30	2.40	2.20	2.10	2.20	1.90	2.00	2.00	1.90	2.11
卒業時	2.30	2.30	3.00	2.50	2.60	2.30	2.10	2.00	2.70	2.42
差異	0.00	▲ 0.10	0.80	0.40	0.40	0.40	0.10	0.00	0.80	0.31



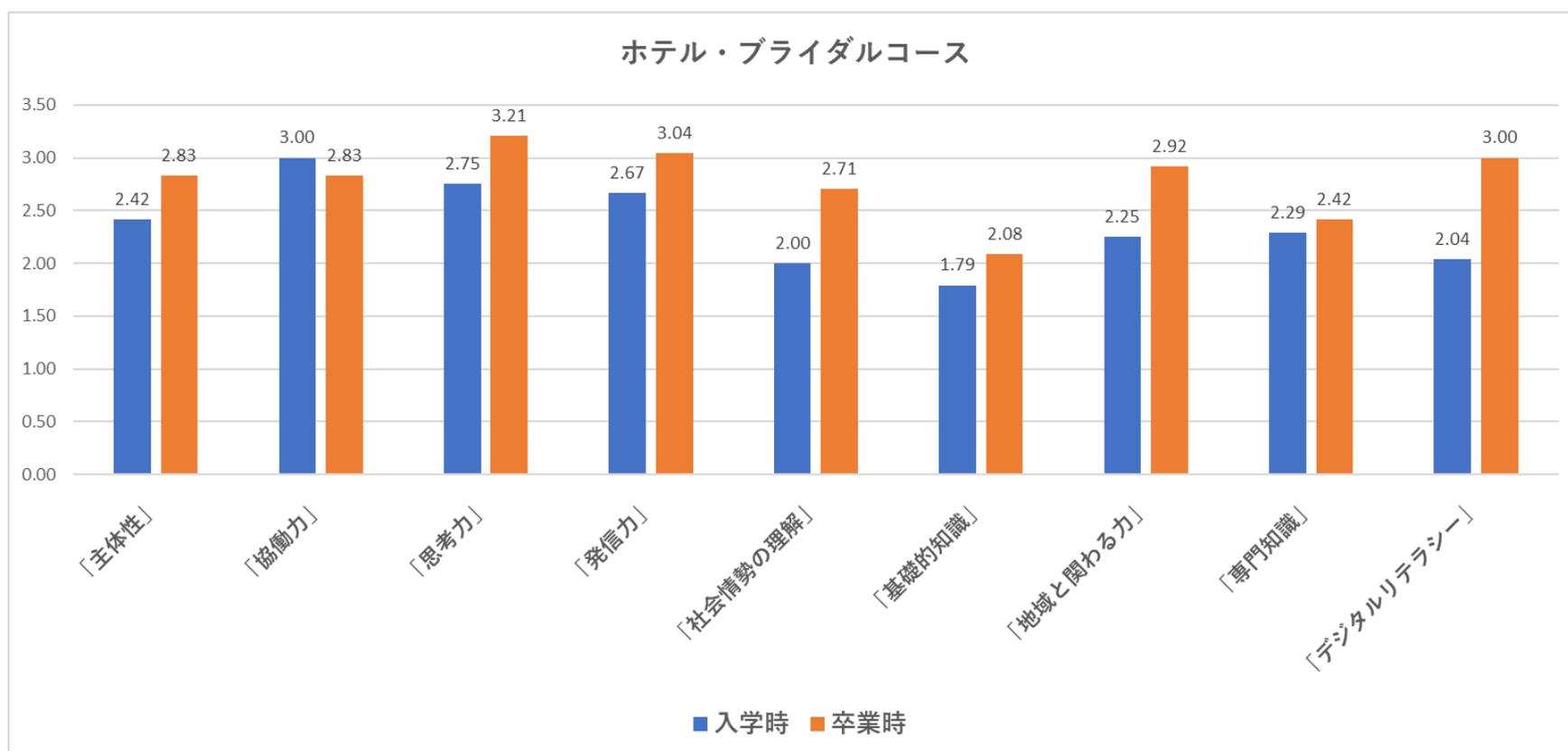
〈グラフ 4〉 医療コース

全体	主体性	協働力	思考力	発信力	社会情勢の理解	基礎的知識	地域と関わる力	専門知識	デジタルリテラシー	総平均値
入学時	2.22	3.30	2.35	2.52	2.04	2.43	2.26	2.78	2.39	2.48
卒業時	2.91	2.91	3.48	3.13	3.04	2.04	3.09	2.57	3.35	2.95
差異	0.70	▲ 0.39	1.13	0.61	1.00	▲ 0.39	0.83	▲ 0.22	0.96	0.47



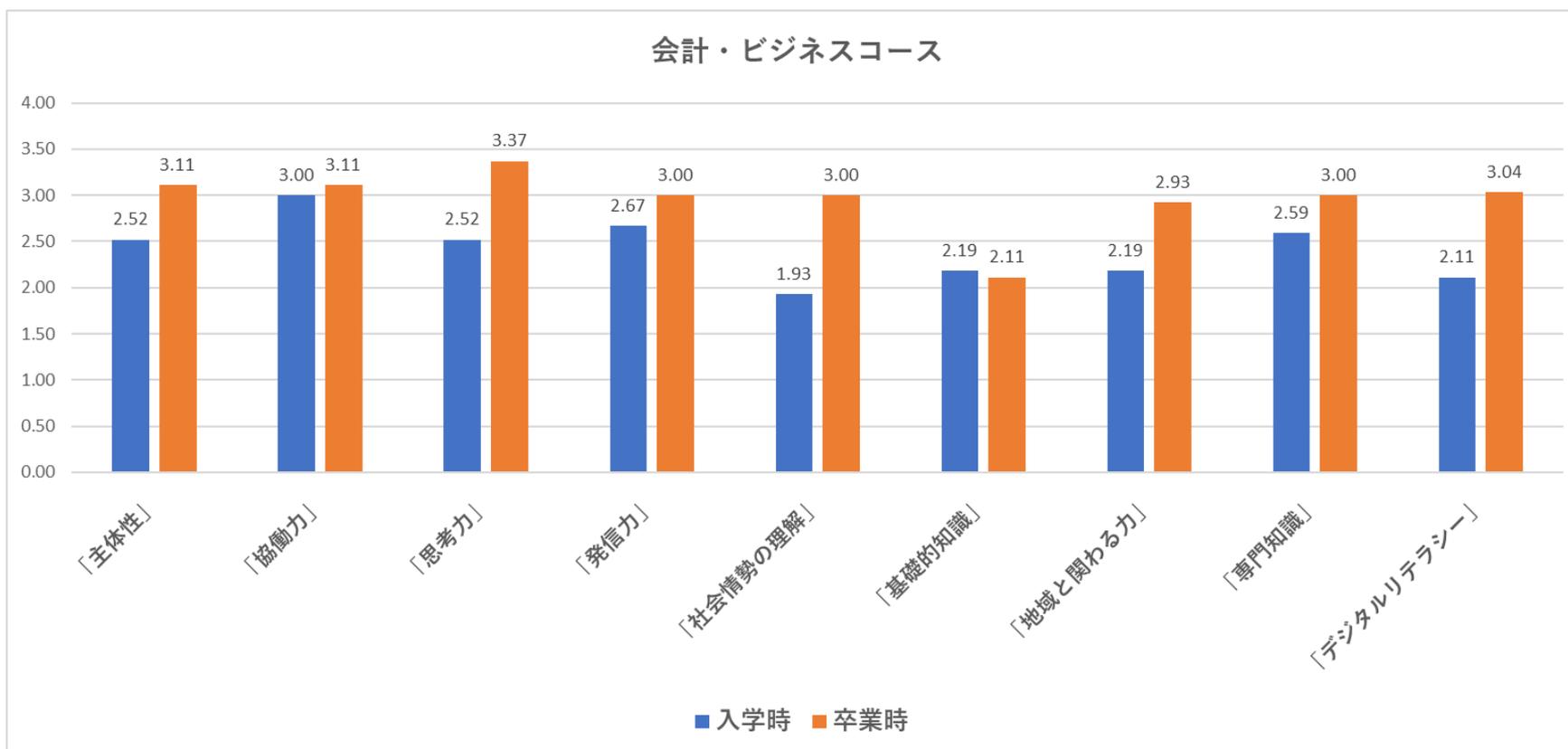
〈グラフ 5〉 ホテル・ブライダルコース

全体	主体性	協働力	思考力	発信力	社会情勢の理解	基礎的知識	地域と関わる力	専門知識	デジタルリテラシー	総平均値
入学時	2.42	3.00	2.75	2.67	2.00	1.79	2.25	2.29	2.04	2.36
卒業時	2.83	2.83	3.21	3.04	2.71	2.08	2.92	2.42	3.00	2.78
差異	0.42	▲ 0.17	0.46	0.38	0.71	0.29	0.67	0.13	0.96	0.43



〈グラフ 6〉 会計・ビジネスコース

全体	主体性	協働力	思考力	発信力	社会情勢の理解	基礎的知識	地域と関わる力	専門知識	デジタルリテラシー	総平均値
入学時	2.52	3.00	2.52	2.67	1.93	2.19	2.19	2.59	2.11	2.41
卒業時	3.11	3.11	3.37	3.00	3.00	2.11	2.93	3.00	3.04	2.96
差異	0.59	0.11	0.85	0.33	1.07	▲ 0.07	0.74	0.41	0.93	0.55



《所見》

このルーブリック調査は、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に関連する能力・知識をルーブリックの形式で、入学時と卒業時に学生自身が自己評価したもの。

現代ビジネス学科全体では、総平均値では0.46ポイントで若干の上昇がみられた。「思考力」「社会情勢の理解」「デジタルリテラシー」については、0.8ポイント以上の上昇がみられる。特に「社会情勢の理解」は、卒業時に平均レベル2.88に達しており、昨年度の平均レベル1.88を1.0ポイント上回る結果となった。昨年度の分析をもとに、特にコースごとのゼミ活動にて「社会力の理解」を意識させる取り組みをおこなった効果であると考えられる。また「デジタルリテラシー」についても0.98ポイント上昇、卒業時の平均レベルが3.07に到達していた。急激に変化する社会に適応できる情報リテラシー能力を2年間で身に付けさせるために、様々な授業において「ICTの活用」を取り入れ、日々情報に触れることにより、ビジネスで活用できるレベルまで到達できたと考えられる。また〈グラフ2〉割合比較から、入学時は寒色系（レベル0～2）の割合が半分を占めていたのに対し、卒業時には暖色系（レベル3～5）の割合が2/3程度を占め、全体的に底上げされ、本学の教育プログラムの効果があったと言える。ただし「協働力」が入学時よりポイントがダウンし、「基礎的知識」は入学時と変わらない数値であったことは大きな課題である。「協働力」については、昨年度までは常に卒業時平均レベル3.0以上であったため、2021年度入学生についてはコロナ禍の影響が大きく関係しているのではないかと考えられる。入学時に半分以上の科目がオンライン授業でスタートし、後期には全面オンラインになるなど、2年間で対面でのグループワークやフィールドワーク、インターンシップ等の機会が失われた。対面での人との関わりが「協働力」を養うために不可欠であることを裏付ける結果であるとも言えるので、人との関わりを意識した取り組みを強化していきたい。また「基礎的知識」については、本学が考える「基礎的知識」と学生が捉えている「基礎的知識」にギャップがある可能性が否めない。本学としてはビジネスに不可欠な基礎教育科目を広く指しており、初年次ゼミ等も含めている。一方で学生はいわゆる5教科に近い学修内容をイメージしている可能性もある。つまり「基礎的知識」や「教養」等の分野や範囲がうまく伝わっていないことも一因かと思われる。今後は主にゼミや基礎教育科目において知識の修得を強化していくのと同時に、ルーブリックの各段階における表現の精査と、GPAを絡めた学修成果の可視化を進めていく。